

1 単元名 たんけん はっけん ぼくとわたしのおきにいり

2 単元について

(1) 学習指導要領から

本単元は、生活科の内容(1)(3)(5)(6)(8)と関わりがある。その中でも特に、

- (5) 身近な自然を観察したり、季節や行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり、楽しくしたりできるようにする。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに関心、みんなで楽しむことができるようにする。

という内容と深くかかわっている。

ここでは、視覚、聴覚、触覚、嗅覚などの諸感覚を使って、校庭、通学路、地域の公園の自然を観察する活動を行い、体全体で自然と触れ合い、季節の自然の様子に関心することを目指す。その際、自分の「お気に入りの探し」という目的をもたせることで、身近な自然に愛着をもてるようにしたい。さらに、見つけた自然で遊びを考え、友達と一緒に楽しむことを通して、身近な自然への関心を高め、自然遊びの面白さや自然の不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付けるようにしたい。

(2) 単元の目標

身近な自然とかがかわる活動を通して、自然の様子や自然物を使った遊びの面白さに関心、身近な自然への関心を高め、自分の生活を楽しくしようとする。

(3) 単元の評価規準

- 身近な自然に進んでかかわり、身近な自然への関心を高めたり、自分の生活を楽しくしようとしていたりしている。(関心・意欲・態度)
- 諸感覚を使って身近な自然を観察したり、自然を使った遊びを考えたり工夫したりし、それらをすなおに表現している。(活動や体験についての思考・表現)
- 身近な自然の様子、自然物を使った遊びの面白さ、自然の不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。(気付き)

3 部会研究課題とのかかわり

研究課題(1) 学校や地域の特色を生かした単元開発をする。

○自然豊かな大木戸の町を生かした単元構成

本校は、畑に囲まれた自然豊かな学校である。校庭も広く、イチヨウ、ツツジ、ダイダイ、ビワなどたくさんの樹木が見られる。ハルジオン、オオバコ、タンポポ、シロツメクサなどの草花もあり、子どもたちは身近に接することができる。メダカやタニシなどを観察できる池もある。教室外のベランダや学校の玄関横には、ツバメが巣を作っている。学校近くの畑では、毎年なかよしグループでサツマイモを植えたり、学級裁量で様々な野菜を育てたりもしている。通学路にも、たくさんの自然がある。シロツメクサが一面に広が

る牧草地（野原）があったり、道端に草が生えているところがたくさんあったり、家の玄関先や庭先にきれいな花が咲いていたりする。さらに、学区に隣接して創造の杜公園という大きな公園があり、中央に位置する調整池では、カメが石の上でのんびり寝そべっている。その周りには、ドングリ、ツバキ、マツボックリ、クワの実など、木の実が豊富にとれる樹木やシロツメクサなどの草花が広がる原っぱがある。

このような豊かな自然に目を向け、体全体でその自然を楽しめるような単元を構成することで、進んで自然とかかわり、自然豊かなこの大木戸の町を大好きになる児童を育てたい。

研究課題（２）子どものこだわりやよさを見つけ、やる気を引き出す支援のあり方を探る。

○「お気に入り」を見つけることを目的にした自然観察の場を設定し、児童の「お気に入り」に共感したり、問いかけたり、称賛したりする。

「お気に入り」というのは、児童の好きなものであり、こだわりである。身の回りの自然を「観察しましょう。」と投げかけるよりも、「お気に入りを見つけましょう。」と投げかけた方が、児童は進んで身の回りの自然をよく見て、比べることになる。そして、「お気に入り」として選んだものに、愛着をもつことができると考える。

また、児童の「お気に入り」に、共感したり、問いかけたり、称賛したりすることも、児童のやる気を引き出す支援になると考える。児童が見付けた「お気に入り」に教師が共感すれば、その児童は自分が選んだ自然がもっと好きになり、もっと「お気に入り」を見付けたいという思いをもつことができる。児童の「お気に入り」に対して、「どんなところが気に入ったの」と問いかければ、「綿毛がふわふわ飛ぶところが好き」などと思いを言葉で表現することになるだろう。そうすることで、「お気に入り」の理由が具体化し、さらにその「お気に入り」が好きになったり、他の「お気に入り」を選ぶ際の見方が深まったりするだろう。このような姿を見取り、価値付け、称賛し続けることで、児童はやる気を高めながら、活動を進めていくことができるだろう。

○自然遊びの活動の際に、他者とのかかわりが生まれるような活動や場の構成を工夫する。

本単元では、自然遊びを行う際に、地域の方（牧草地の所有者）、保護者、同じ学校の2年生、学級の友達とのかかわりが生まれるよう、指導計画を設定している。

まず、牧草地で遊ぶ際には、所有者である地域の方（Aさん）に出会わせ、「Aさんが、みんなのために特別に牧草地を使わせてくれる」ことを伝える。Aさんからは、「子どもの頃に自然の中で思い切り遊ぶと、よい思い出になる。教室ではできない体験をいっぱいしてください。」と思いを語っていただく。そうすることで、児童はAさんに対し、感謝の気持ちを持ちながら、「牧草地の自然で思い切り遊びたい。」という気持ちを高めることができるだろう。

保護者とのかかわりでは、学習参観で自然遊びを設定する。その際、少し難しい自然遊びを意図的に仕組むようにする。子どもだけではできないことも、保護者の方の力を借りたり、励ましてもらったりすれば、諦めずにチャレンジできるだろう。うまくできたときには、保護者の方にも認められ、喜びは倍増し、さらにやる気を高めることができるだろう。家庭でも、チャレンジする児童が増えることも期待できる。

2年生とのかかわりでは、遊びを教してもらったり、一緒に遊んだりすることができる。2年生は、同じ学校にいる身近な存在なので、休み時間にも、コツを教してもらったり、一緒に遊んだりすることができ、児童は楽しく自然遊びに取り組むことができると考える。

学級の友達とのかかわりでは、活動の場を次のように工夫する。まず、遊びごとに材料置き場と掲示板を設置し、同じ遊びをする児童同士が自然と近くに集まって活動できるようにする。次に、遊びがうまくできた児童の名前を掲示板に示し、児童同士でコツを尋ね合えるようにする。今までうまくできなかった児童も、コツを教えてもらうことで、遊び

がうまくなり、やる気を高めるだろう。一方、掲示板に名前がのった児童は、自信を高め、「もっとうまくなりたい。」とやる気を高めていくだろう。

4 児童の実態から

(1) この単元を通して育てたい子どもの姿と子どもの思い・願い

- 学校や地域にある自然に関心を持ち、進んでかかわろうとする子ども
- 身近な自然を使って、友達と工夫しながら作ったり遊んだりする活動を楽しむ子ども
- 身近な自然の様子や自然物を使った活動の面白さ、自然の不思議さに気付く子ども

(2) 教師の願いと配慮事項

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	気付き
教師の願い	① 身近な自然や自然物を使った遊びに関心を持ち、学校や大木戸の町を好きになってほしい。	② 諸感覚を使って自然を観察してほしい。自然物を使った遊びを考えたり、工夫したりしてほしい。	③ 身近な自然の様子、自然物を使った遊びの面白さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いてほしい。
	↓	↓	↓
配慮事項	① 校庭、通学路、公園を採検したり、近くの牧草地で遊んだりして、実際に自然と触れる活動を設定する。児童が採集してきた草花を飾り、身近に感じられるようにする。自然や自然遊びの写真を掲示し、関心を持てるようにする。関連図書を用意し、児童が自由に調べたり、参考にしたりできるようにする。	② 視覚、触覚、聴覚、嗅覚、気持ちを表す絵カードを見せて意識づけをする。お気に入りの絵を描いたワークシートに、感じたことを言葉でも書いてみるよう促す。公園採検の際に、諸感覚を生かして自然と触れ合えるようなビンゴカードを用意する。図工の時間に、採集した自然物を使って顔を作る活動を行う。遊びを工夫している児童を積極的に称賛し価値付け、他の児童に広める。	③ 校庭、通学路、公園で見つけたお気に入りの絵と言葉でワークシートに書かせる。ワークシートは、並べてつなげられるような形式にし、自分の気付きを振り返ることができるようにする。自然遊びの際には、友達と気付きを共有できるように活動や場を工夫する。気付いたことを比較できるような問いかけをしたり、比較している児童を称賛したりする。

(3) 配慮事項に関する実態

○配慮事項①に関連して

- ・自然に対する興味・関心（アンケート、行動観察、つぶやきから）

自然に関わる様子には、個人差がある。登下校や休み時間に、花を摘んだり、草や木の実を集めたりして、うれしそうに教室にもつてくる児童がいる。「どんぐりを拾ったからあげる。」などと、自然を媒介に他者と関わる姿も見られる。一方で、サッカーや遊具を使った遊びに夢中で、進んで自然にかかわる姿が見られない児童もいる。しかし、そのような児童もアンケートでは、葉っぱ、草、花、木の実、小さな生き物、動物などの

自然が「好き」と答えている。「好きではない」と回答した児童は、ごく少数で、自然と触れ合う経験が少ないのがその理由と考えられる。

- ・畑に囲まれた自然豊かな学区であるが、農家の子が〇名、家が畑に隣接している児童が〇名、住宅地に住む児童は〇名、マンションに住む児童は〇名である。生活の中で、じっくり自然に触れ合える環境に住んでいるのは、農家の子〇名と言える。

○配慮事項②に関連して

- ・諸感覚を使った観察（行動観察・つぶやきから）

アサガオの観察をする様子を見てみると、視覚だけを使って、葉の形、色、大きさを観察する児童が多い。しかし、こちらから、「どんな手触りかな」と問いかけると、すぐに触って、「すべすべしてる」「ざらざらしてる」などと、応えることができる。

- ・自然物を使った遊び（アンケート・インタビューから）

単元に入る前の調査では、葉っぱで何かを作ったり遊んだりした経験のある児童は、〇名（内容は、ほうき作り、冠作り、舟作り、剣作り、飛行機作り、仮面作り、団扇遊び、お店屋さん、料理ごっこ）だった。草で何かを作ったり遊んだりした経験のある児童は〇名（内容は、はさみ作り、剣作り、編んでチェーン作り、こおろぎ作り、頭につける飾り作り、おおばこずもう、料理ごっこ、おままごと）だった。花で何かを作ったり遊んだりした経験のある児童は、〇名（内容は、花束作り、花飾り作り、ブレスレット作り、冠作り、指輪作り、ネックレス作り、人形作り、ダンゴムシのベッド遊び、ケーキ屋さん、たんぼぼのパラシュート、花びらをちぎってのりで紙に貼る遊び）だった。木の実で何かを作ったり遊んだりしたことのある児童は、いちばん多くて〇名（内容は、おうち作り、どんぐりごま、蹴る遊び、クリスマスのリース作り、ケーキ作り、まっぼっくりでドッジボール、どんぐりを踏む遊び、おままごと）だった。

○配慮事項③に関連して

- ・身近な自然の様子、季節の変化への気付き（発言、行動観察から）

「春はお花がたくさん咲いていてきれいだね。」「梅雨入りしたから、雨がいっぱい降るはずなんだけど、雨が降らないね。」などと、児童は生活の中で、身近な自然の様子に気付いている。また、気温が高くなり、「暑い。汗かいちゃった。」と言って、長袖から半袖に着替える児童の姿が見られる。中には、「学校に来るだけで、汗びっしょり。」とその変化に驚く姿も見られた。アサガオの栽培活動においては、「芽が出た」「葉っぱ増えた」「葉っぱが大きくなった」「葉っぱの形が変わった」「くるくるとしたものが出てきた」とほとんどの児童がその変化を楽しみにしている。

- ・自然物を使った活動の面白さ、自然の不思議さへの気付き（行動観察、発言）

校庭や通学路に生えている草花を摘み、学校へもってくる児童がいた。水を入れたペットボトルに草花を差して飾ってあげると、うれしそうにしていた。次の日は、その児童と別の児童が、草花を摘んできた。校庭で見付けたオオバコでオオバコの綱引きを楽しむ児童がいた。「何本か一緒にやると強いよ。」と言って、友達と勝負する姿が見られた。牧草地に遊びに行った際には、草の上に寝転がって、「草のにおいがする。」「ふわふわしてる。」とつぶやく児童や、草の中を走り回って、「チクチクするけど、何か気持ちいい。」つぶやく児童の姿が見られた。「どちらがたくさん摘めるか競走だ。負けないぞ。」と、一面に咲いているシロツメクサを夢中で摘む児童や、やり方を教わりながら、夢中でシロツメクサの冠を作る姿が見られた。牧草地には、チョウ、バッタ、カマキリ、キリギリス、カエル、テントウムシ、テントウムシの幼虫などがいて、夢中で追いかける姿が見られた。また、捕まえたバッタを手から落とし、「あれ、どこに行った？」と、バ

ツタと同じ色の草を掻き分けて、夢中で探す姿が見られた。

5 学習の流れ（17時間扱い）

主な活動と内容

小单元1 たんけん！お気に入りさがし（9時間）

評価規準

- ◎体全体を使って身近な自然と触れ合ったり、思いや願いをもって自然とかかわったりしようとしている。（関心・意欲・態度）
- ◎諸感覚を使って身近な自然を観察している。（思考・表現）
- ◎身近な自然の様子や特徴、季節による自然の変化に気付いている。（気付き）

○お気に入り探しをする。

・校庭探検（2） ←

探したもので、作ったり遊んだりする。

・タンポポのパラシュート・オオバコの綱引きなど

・通学路探検（2+課外） ←

・バラや葉っぱのにおいを嗅ぐ

・シロツメクサの指輪

・ふわふわした草、チクチクした草を触る

・創造の杜公園探検（4） ←

・草原の坂を滑る

・桑の実を食べる

・大きな葉っぱでお面を作る

○2年生から春の自然遊びを教わる。（1）

・シロツメクサの花飾り、タンポポの指輪、ナズナの鈴、笹舟、虫探し、葉っぱの人形

【留意点】

- ・けがや事故防止のため、安全に配慮するとともに、道路の歩き方、横断歩道の渡り方、危険な生き物などについての児童の意識を高めさせ、児童自身が安全に気を付けられるよう指導する。
- ・見つけた「お気に入り」は、横につなげて並べられるタイプのワークシートに書くようにし、気付きを振り返ったり、比較したりしやすいようにする。
- ・児童が採集したお気に入りの自然は、押し花にしたり、教室前の流しに飾ったり、写真をとって掲示したりして、身近に感じられるようにする。
- ・創造の杜公園では、自然ビンゴのワークシートを用意し、諸感覚を使って自然を観察できるようにする。
例) 視覚（きれいな色の花、面白い形の葉っぱ、背が高い草、動くもの など）、
触覚（ふわふわするもの、すべすべするもの、ちくちくするもの など）、
嗅覚（においのする草）、聴覚（鳥の声、きれいな音）、味覚（おいしそうなもの）
- ・図画工作の学習で、紙皿に草花をつけて顔を作る活動を設定し、採集した自然に触れ、その特徴を生かして遊べるようにする。
- ・小单元2につながるよう、探検の途中にも自然遊びを紹介し、興味をもたせておく。

小単元2 はっけん！ おきにいの しぜんあそび（8時間）

評価規準

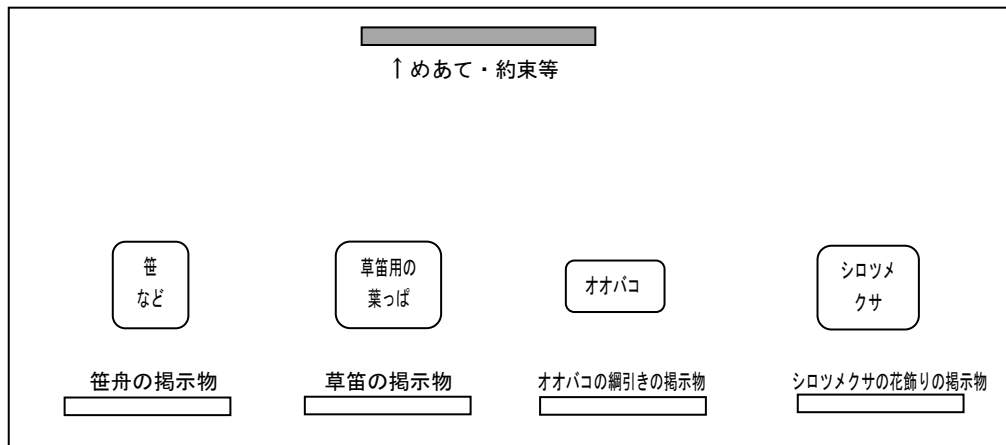
- ◎身近な自然を利用した遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。
(関心・意欲・態度)
- ◎身近な自然を利用した遊びを考えたり、自分なりに工夫したり、それをすなおに表現したりしている。
(思考・表現)
- ◎自然を使った遊びの面白さ、自然の不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。
(気付き)

- 近くの牧草地（野原）で遊ぶ。（4）
 - ・花摘み
 - ・シロツメクサの冠作り
 - ・たけのこ探し（牧草地の端にある竹やぶで）
 - ・虫とおにごっこ
 - ・自然かくれんぼ（高さ 80 c m程の草陰に隠れる）
- 校庭で自然遊び（3）
 - ーおうちの人と一緒に（1）
 - ー学級の友達と一緒に（2）〈本時1 / 2〉
 - ・シロツメクサの花飾り
 - ・笹舟
 - ・草笛
 - ・オオバコの綱引き
- 単元を振り返る。（1）

【留意点】

- ・牧草地を使う前に、所有者の方から許可をとる。児童には、牧草地の草は牛のえさになること、学習のために特別に使わせてもらっていることを伝え、感謝の気持ちをもてるようにする。また、牧草地の所有者の方からも、地域の子どもたちへの願いをお話していただく。
- ・校庭での自然遊びの際は、意図的に他者とかかわらせる。その際、遊びを通して交流が自然に生まれるよう、材料を置く場所、掲示板の活用など、活動や場の設定を工夫する。
- ・遊びを工夫している児童を称賛する。その際、具体的に称賛するようにし、工夫の仕方が他の児童にも広がるようにする。
- ・遊んだ後の振り返りのワークシートは、1年生の児童でも短時間で記入できるような形式にする。

本時の場の設定（例）



6 本時の指導

(1) 本時の目標

自然を使った遊びを工夫し、友達と遊びを楽しむことができる。

(2) 展開 (15 / 17)

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (☆)
<p>1 本時のめあて、約束等を確認する。 「きょうの ピカ1」の視点 うまい・すごい・くふうしている</p>	<p>○児童が見通しをもって活動できるように、めあて、約束等を簡単に確認する。また、「きょうの ピカ1」の友達を見付けられるよう、声をかけておく。</p>
<p>しぜんで <u>もっと</u> たのしく あそぼう。</p>	
<p>2 自然を使った遊びを行う。 【予想される遊びとつぶやきの例】 ・笹舟…水に浮かぶよう、工夫して笹舟を作り、流水に浮かべて遊ぶ。 「笹舟ができたけど、ちゃんと浮かぶかな。」 「○○くんのは、水がぐるぐる回っても沈まなくてすごいね。」 ・オオバコの綱引き…勝つための方法を考え、友達と勝負をして楽しむ。 「太い茎が強そうだな。」 「ゆっくり引っ張った方がいいかな。」 「やったあ、勝った。」「次はぼくと勝負だ。」 ・シロツメクサの花飾り…シロツメクサを上手に編み、作りたいものを作る。 「プレスレットを作ろう。」 「○○ちゃん、うまいね。教えて。」 ・草笛…音が鳴りそうな葉っぱを選び、音を出して楽しむ。 「サクラの葉っぱは、いい音が出そう。」 「息を強く吹けば音が出るかな。」 「○○さん、いっぱい音が出てすごい。」</p>	<p>○季節の自然を体全体で感じられるよう、また、必要な材料をすぐに取りに行けるよう、校庭にブルーシートを敷いて授業を行う。 ○材料を媒介として児童同士のかかわりが生まれるよう、材料をそれぞれの活動の場を中心に置いておく。 ○遊び方が示された掲示物を用意し、児童が必要に応じて見られるようにする。また、その遊びができた児童は、掲示物に名前シールを貼るようにする。 ○友達と一緒に遊びを楽しんでいる児童を見守り、称賛したり、コツを尋ねたりする。 ○活動が滞っている児童に積極的に介入し、遊び方を具体的に教える。 ○友達とかかわれない児童には、最初は教師がかかわり、次第に友達とかかわれるよう橋渡しをする。 ○遊びの面白さや工夫をつぶやいている児童がいたら、取り上げて称賛し、他の児童に広める。</p>
<p>3 活動を振り返る。 【期待する児童の発言例】 「ピカ1は、○○くんです。オオバコの綱引きで、強かったからです。」 「コツは、茎が太いのを使うことです。」 「○○さんが、ピカ1です。いい音が鳴ったし、コツを教えてくれたからです。」 「コツは、息を強く吹くことです。」</p>	<p>☆自然を使った遊びを工夫し、友達と一緒に遊びを楽しんでいる。【思考・表現】(活動の様子・つぶやき) ○めあてと約束についてよくできたか尋ね、全員に手で表現(花丸、丸、三角)させる。その後、「今日のピカ1」は誰かを問いかけ、数人の児童に発表させる。可能ならコツも尋ねる。 ☆自然遊びを楽しんだことを実感し、工夫するよさに気付いている。【気付き】(挙手・発言)</p>